

「この場を借りて言います。僕と結婚しよう」

胃がんになったことをきっかけに、食の大切さに目覚め、宮城県でカフェをはじめた K さん。事業の立ち上げで弱音を吐いたり、くじけそうになったりした時も励まし、いつも支えてくれるという彼女に、この日、プロポーズをしようと準備して参加しました。

K さんは彼女と二人で食事に行くとき、食べきれない量の料理を注文してしまうそうです。K さんは食べきれなくて、残してしまう。それに対して、彼女は残すのが嫌い。なので、具合悪くなるからと言っても無理して食べてしまう。彼女のそんな食べ物を大事にするところが大好きだと言います。

「初めて病気のことを告白した時、断られると思っていました。でも、困惑した顔を見せながら付き合ってもいいと言ってくれた。それが本当にうれしかったです。事業を始めて大変だった時、お尻を叩いてくれたこともありました。夜遅くまで仕事をしている時、手作りのお弁当を持ってきてくれました。涙が出るほどうれしかった。今でも思い出すと涙が出ます。辛い時、支えてくれたのはあなたでした。本当にありがとう。」

そんなメッセージの後、Kさんは、本題に入ります。

「病気になった時、もう結婚はできないと思っていました。でもあなたと会って、一生懸命生きるようになって、結婚したいと思えるようになりました。今まで、改めて言うことがありませんでしたが、この場を借りて、ちゃんとプロポーズしたいと思います。」

「僕と結婚しよう。」

ここで映像は終了。会場から大きな拍手が起こります。Kさんは立ち上がり、彼女の手をとって、会場前方のステージに上がり、みんなの前で、この日のために用意した指輪を出してプロポーズをしました。

全員が見守る中、あふれる涙を手で拭いながら、彼女はイエスと答えます。

一段と大きな拍手が鳴り響く中、幸せに結ばれたKさんと彼女でした。